

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>校訓「高志深心」の理念を指針として教育に努める。 「ステップアップ高志館」－更なる成長を目指す－</p> <p>① 学業の充実 ② 基本的生活習慣の確立 ③ 生徒会活動・農業クラブ活動・部活動・ボランティア活動の活性化 ④ 信頼される開かれた学校の推進 ⑤ 専門教科の教育内容及び施設・設備の充実</p>	<p>○生徒が自らの可能性を信じ、更なる「成長」を目指すよう、授業と部活動の充実 に努め、生徒が力を試す挑戦の場を多く準備する。 ○時代とともに技術は変化したが、身につけた精神は生き方を支えることを理解させ、さまざまな教育活動とおして社会に貢献できる「人間力」を身につけさせる。 ○先が見えない時代にあつては、常に考え、課題を解決する能力が備わっていることが必要であるとの認識を持ち、生徒に今は何をすべきかを常に考えさせ、課題や責任を果たさせる中で自信を芽生えさせ、自立しようとする気持ちを育てる。</p> <p>① 危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実 ② 学科学習プロジェクトの推進 ・園芸科科学科 …… 環境保全型農業プロジェクト ・環境緑地科 …… スクールパーク化プロジェクト ・食品流通科 …… 学校ブランド商品の開発プロジェクト ③ 学力向上 ④ 希望進路実現100%の達成 ⑤ 生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化</p>

3 目標・評価					
① 危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実					
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
学校運営	○危機管理意識向上と安全対策	・安全管理の意識をもって生徒指導に当たっているか。 ・現場に即した緊急マニュアルを策定しているか。	・事件、事故の未然防止。 ・危機管理マニュアルを毎年見直す。 ・登下校時の緊急時の対応や報告、連絡の徹底。	・現状に即した危機管理マニュアルの改訂と伝達講習会の実施。 ・農業の取り扱いに関する研修会の導入。 ・避難経路の確認。 ・不審者に対する対応。	生徒指導部 農学部 保健部
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改善の推進	・教職員全体の働き方に関する意識改革を図っているか。 ・業務の効率化の推進、情報の共有に努めているか。	・業務効率化 ・多忙軽減 ・効率的な業務遂行を工夫 ・各担当業務の情報共有を強化	・現行の制度をよく理解したうえで、業務をより効率的なものにできないか専断していく。 ・タム・タムセッションを行うとともに、定時推進日の確かな実施を行う。 ・共有フォルダを利用し、様式、業務データの共有を行い、効率的な業務遂行に努める。また、SEI-net等の有効活用にも努める。	管理職
教育活動	○危機管理意識向上(生徒指導)	・校則や交通ルールを守れたか。 ・危機管理意識を持てたか。	・基本的な生活習慣・態度の育成 ・規範意識の向上 ・交通安全教育の徹底 ・防犯、防災意識の向上	・全職員による登校指導(当番制)を行い、職員からの積極的な声かけにより、生徒とのコミュニケーションを図る。 ・学期に1回自転車点検をする。 ・生徒会役員による自転車盗難防止の取り組みを行う。 ・交通講話、防犯講話、薬物乱用防止講話を実施する。	生徒指導部
教育活動	●健康・体づくり	・基本的な生活習慣を身につけさせることができたか。	・感染症予防の徹底 ・食生活・生活習慣の充実 ・正しい生活と健康管理指導の実施	・感染症流行期は、手洗いうがい・教室換気・マスク着用などを徹底する。 ・エイズ講演会や教育講演会を1回以上開催し、自己管理の大切さを学ばせるとともに、次世代を担う人材育成を図る。 ・食に関する実習や食に関する授業等で、食生活に対する意識を向上させる。 ・保健室にて、保健・健康に関する事項を生徒や保護者へ伝達し啓発を図る。	保健部 家庭科
② 学科学習プロジェクトの推進					
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	○学科学習プロジェクトは推進したか。	・生徒・教員がともに課題研究やプロジェクト学習に取り組み、生徒自身がPDCA(計画-実行-評価-改善)を実践できる能力を養う。	・各学科で1つ以上の研究テーマを掲げ、生徒主体の研究活動の推進。	・農家や地域の身近な課題に目を向けた研究に取り組む。 ・プロジェクト学習に各学科全体で取り組む。 ・研究内容を体系的に評価するため、すべての研究成果について発表の場を設ける。 ・県連大会や各種コンテストに出場し、入賞を目指す。	各学科
	○魅力ある専門教育を実施したか。	・生徒が自ら学ぶ実験実習等を導入する。また興味関心を85%以上にする。	・専門教科に興味を持つことで地域の課題に目を向けることができる。	・専門性を高めるため、各種専門分野から外部指導者を招き、直にプロの知識や技術に触れることで、生徒の興味関心を高めるとともに、実験・実習の充実を図る。 ・「学科を超えた実験、実習による横断学習及び学科内での縦断学習など」を、学年を超えた魅力ある授業を展開する。	各学科
	○校外・地域へ専門高校の魅力を発信できたか。	・各学科、地域を大切にしたい取り組みを企画し実施する。	・積極的にHP、学校だよりその他による情報発信を行う。	・3学科連携した生産物販売所の設置と積極的な経営実践を月1回のペースで導入する。この取り組みにより、専門教育の魅力を体感させるとともに、接客を通して地域の課題に目を向けさせる。 ・「学校だより」を年10回発行し、保護者、地域、各中学校へ情報を発信する。 ・各学科は、一学期から学校紹介パネルを展示し、情報を発信する。	各学科 教務部
③ 学力を向上させる					
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	○教職員の資質向上	・毎時間、授業を大切にすること。 ・教育目標を明確にしたがって授業に臨む。	・授業はチャームからチャイムの真剣勝負 ・教師相互の授業研究による授業改善の推進	・公開授業を実施するとともに、校内外の授業参観や研修に1回以上参加する。 ・毎月、職員目標を提示し、教職員の授業に対する意識を高める。	教務部
	●学力向上	生徒の学習意欲の向上と自ら学ぶ力の養成 ・学習環境を整える。 ・基礎学力を向上させる。 ・基礎から応用へ発展的な学習に取り組む。	・学力向上プロジェクトの実施、資格取得の推進 ・学習環境における学習時間の定着 ・学習の場の整理整頓 ・校内学力向上委員会の有効活用	・時間を守る「チャイムtoチャイム」の授業実践と定着を図る。 ・学力向上プロジェクトを20回、課題テストを3回実施し、学年を中心とした事後指導の徹底と補習の充実。 ・デジタル教材Classiを活用した自主学習指導と定着を図る。	教務部 ICT 農学部
④ 希望進路実現100%の達成					
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	○進路実現	・生徒の進路希望は達成できたか。	・ライフプランと進路希望の早期決定 ・マナーの向上と進路意識の高揚 ・生徒の希望進路100%実現 ・国立大学や学校推薦進学への進学希望者に対する進路指導の充実	・進路講演会・ガイダンス等による進路啓発 ・マナー講座・マナー検定への積極的取り組み ・全職員による企業訪問と面接指導の実施 ・入試制度の変更に伴う情報の収集と学生・学科・教科と連携した小論文・面接指導の充実	進路指導部
	○キャリア教育の充実	・キャリア教育の推進が図られたか。	・技能を高める「資格取得」「インターンシップ」の推進 ・就職希望者を支援する「未来さが農業部」の推進	・学科の専門性を生かした検定・資格取得のための指導(補習)や外部講師の実施。 ・就労意識を高めることを目的としたプロフェッショナルインターンシップの実施。 ・生徒の就業力が就業先への入社促進と具体的な進路実現に貢献する。 ・ものづくりマイスター制度を利用した専門技術指導の実施。	第2学年 農学部 各学科
⑤ 生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化					
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●心の教育	・生徒会・農業クラブ活動を通して地域に貢献しているか。 ・環境に配慮した取り組みがなされているか。 ・コミュニケーションは「挨拶から」を実践できているか。 ・生徒主体の取り組みができたか。	・自発的な地域社会貢献活動の推進。 ・「ごみゼロ運動」や「資源リサイクル」活動の推進。 ・さわやかな挨拶、相手思いや行動の実践。 ・挨拶には必ず役割を担う人々が役割を担っていることを理解させる。	・JRC部、生徒会、農業クラブを中心に生徒へのボランティア活動の輪を広げる。 ・ごみの分別や私物のごみの持ち帰りの呼びかけを行う。 ・販売会など日頃の学習の成果を試す場を活用して、さわやかな挨拶をすることや相手の立場になって考えることの重要性を認識させる。 ・教師指導ではなく、生徒の自発的な活動が行われるよう支援する。	農少年 生徒会
	●いじめの問題への対応	・思春期の心の向き合い方を指導できたか。 ・いじめ問題への取り組みを2回以上を実施したか。 ・生徒の動向の変化を観察できたか。 ・いじめの問題について迅速に対応し、その悪化を防ぎ、真の解決に結びつけることができたか。	・いじめは人として絶対に許されないという意識を生徒一人一人に徹底する。また、早期発見、早期対応に努める。 ・教育相談の職員と密に連携を取り、問題解決に向けて日頃より情報交換を行う。 ・職員からの積極的な声かけにより、生徒とのコミュニケーションを図る。また、それに伴い職員間の情報交換を行い、問題行動の早期発見に努める。	・教育相談を充実させるため、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーの活用、業種教育等との連携を積極的に図る。また、専門家との連携を図る。 ・教育相談の職員と密に連携を取り、問題解決に向けて日頃より情報交換を行う。 ・職員からの積極的な声かけにより、生徒とのコミュニケーションを図る。また、それに伴い職員間の情報交換を行い、問題行動の早期発見に努める。	教育相談 生徒指導
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)					
領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)